



農作業メモ

麦類の栽培管理

平成27年産麦類は、一部の地域では5月の干ばつと6月長雨の影響で収量・品質が低下しましたが、全体的には、昨年より多収量になり、品質も良好でした。

小麦では、さとのそらが2年目を迎えました。基本技術を励行し、高品質安定生産を目指しましょう。

排水対策

収量低下の大きな要因の一つは排水不良による湿害に湿害対策として、サブソイラによる弾丸暗渠の実施や排水溝の設置を行います。

排水溝は、ほ場の周囲及びほ場内5〜10m間隔に設置し、排水口につなぎます(図)。

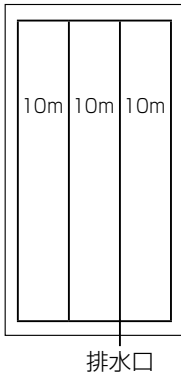


図 排水溝の例 (30a)

出芽の安定

多湿状態の土壌を耕うんすると碎土

が粗くなり、出芽・苗立ちが不安定となります。

出芽・苗立ちの安定のために多湿状態での耕うんは避けましょう。

適期・適量は種

は種期が早過ぎると凍霜害や縞萎縮病の被害を受けやすく、遅過ぎると生育不足による収量の減少や品質低下につながります。

は種量が多過ぎると倒伏の発生や短穂化を引き起こします。さとのそらの種量を5〜7キロに控え、適期・適量は種(表1)に努めてください。

表1 種類別は種期(月/日)と
は種量(ドリル播:kg/10a)

麦の種類	品 種 名	は 種 期	は種量
小 麦	さとのそら	11/ 10~25	5~7
	あやひかり	11/ 10~25	6~8
二条大麦	彩 の 星	11/ 5~20	6~8
六条大麦	すすかぜ	11/ 5~20	5~6

適正施肥

収量と品質を確保するためには適切な肥料の量が必要です。

麦の種類に応じて適正量(表2)を施用します。

また、地力が低い場合は、堆肥を施用し、土づくりや地力増進を行います。

表2 基肥施肥量 けやき化成
(14-14-14)の場合

麦の種類	品 種 名	施肥量 (kg/10a)
小 麦	さとのそら	60~70
	あやひかり	60~70
二条大麦	彩 の 星	50
六条大麦	すすかぜ	50

雑草防除

雑草を繁茂させると、麦の生育不良を招き、収量の低下を招きます。また、収穫時の雑草種子の混入は品質低下などの原因となります。

ほ場ごとの優占雑草や麦類の生育ステージを考慮し、は種後の土壌処理剤(表3)を的確に散布しましょう。

表3 麦類の土壌処理剤

農 薬 名	使用量/10a	使用時期	使用回数	適用雑草
ゴーゴーサン細粒剤F	5~6kg	は種後出芽前(雑草発生前)	1回	1年生雑草
トレファノサイド乳剤	200ml	は種後発芽前(雑草発生前)	2回以内	1年生雑草
クリアターン乳剤	500~700ml	は種直後(雑草発生前)	1回	1年生雑草
ボクサー	400~500ml	は種後~麦2葉期まで (雑草発生前~雑草発生始期)	2回以内	1年生雑草
ムギレンジャー乳剤	300~600ml	は種後出芽前(雑草発生前)	1回	1年生雑草
□□ックス	100~200g	は種後~発芽前 (雑草発生前~発生始期)	1回	1年生雑草

記載農薬は平成27年9月1日現在の登録状況に基づいています。